

森林やまがた

No.69

2002 12月



目次

林道マラソンに参加して.....	2
ウッドフェスティバル2002.....	3
緑の少年団活動	
全国植樹祭のことなど.....	4
「真室川・小国線」が全線開通.....	5
海の幸を育む山に緑を.....	6
現地ルポ	
「和のふる里」を願って.....	7

セントアートピックス	
「森林セミナー」の開催.....	8
平成14年度川村造林記念林業賞.....	9
山形の古木・名木.....	10
公共木造施設.....	10
お知らせ.....	11

(表紙写真は林道マラソンin県民の森2002)

第五十三回全国植樹祭が六月二日に、金山町の『遊学の森』

でおこなわれた事を記念し、又森林の利用活用を促進する林道のイメージアップのため、『林道マラソンin県民の森』が平成十三年十月二十一日と十四年十月二十日の二回にわたり盛大に行われました。県内外から多くの参加者があり、十km、五km、二kmコースに、老若男女一歳から七十八歳まで八百人もの走者が集まりました。親子・夫婦の参加もあり賑やかです。

今年もシドニーオリンピック出場者・市橋有里選手の美しく走る姿を見ることが出来ました。私達、県緑を育てる女性の会のメンバーは、十キロコースの折り返し点で走者への給水係です。走りながら、水の入ったコップを確実に取ってくれるようにと、並べ方に配慮しました。

生憎の小雨が続きましたが、全コースが舗装林道なので泥濘の

で走り切ろうと真剣に走る姿に感じ入り、みんなに大拍手で応

林道マラソンに参加して

緑を育てる女性の会
庄司千恵子



心配はありません。折り返し点まで来ると走者の差が大分つき、援を送り励ましました。タイムを争う人、楽しん最後の走者が通過した頃から

雨足が強まり、車の中で一休みしました。遠くからアナウンサーや子供の笑い声が聞こえて来ます。又、樹木の葉をたたく雨音も聞こえますが、暫くの静寂に心が落ち着きます。

昭和六十三年九月、皇太子殿下と妃殿下ご臨席のもとで行われた当会場での全国育樹祭への参加を思い浮かべていました。それから十五年になりますが、県民の森はすばらしい憩いの森に整備され、又はんのき広場の入り口の林道脇の杉林の見事さに驚嘆を覚えました。

机、ボトル、コップを片付けて、車ではんのき広場に帰ると、大会終了宣言をやっていました。市橋有里さんのサイン会が始まり、大勢の行列が続いていました。係の人に促され、引き換え券と交換に、温かいきのこ汁と昼食の弁当を戴きました。

今年で十三回目となるウッドフェスティバルが「くらしに生かそう木のよさを」をテーマに、鶴岡市小真木原公園で十月十九・二十日の両日開催されました。時折小雨の降る肌寒い天候でしたが、「緑の鶴岡農林水産まつり」と「山形県技能まつり」との同時開催ということもあり、例年並となる約二万二千人の入場者でにぎわいました。

「クラフト村」は連日大勢の参加者があり、ネイチャークラフトや木工細工の体験を通し、木とのふれ合いを楽しむ親子連れが数多く見受けられました。

「木の散歩道」に設置された木製遊具も家族連れが間断なく訪れ、子供たちの人気スポットとなっていました。

ステージ上では保育園児の太鼓演奏をはじめ、吹奏楽、歌、踊り、ゲーム大会等の各種アト

ラクションが行われ入場者を楽しませていました。

ウッドフェスティバル2002 (庄内林業まつり) 開催される



い「どんづき」が実演され、多」をうけていました。

「きのこ汁のふるまい」と「緑のプレゼント」には長蛇の列ができ、「大型木製迷路」と「丸太切り体験」も多数の参加者があり例年どおり好評でした。

最後に行われた一般来場者による「競り売り」では、ひとときの駆け引きを楽しもうという人たちで黒山の人だかりができていました。

その他、展示・販売テントにも多くの来場者があり、盛況のうちフェスティバルを終了することができました。

この催しを通じて、多くの方々に「木の良さ」や「木のぬくもり」、林産物のすばらしさ、森林・林業の役割の重要性を広くPRできたものと考えております。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

会場中央付近では古式ゆかし

綱を引き、酒や赤飯のふるまい

活動報告

大蔵村みどりの少年団
大蔵小学校6年

佐藤美香

六月二日、第五十三回全国植樹祭が金山町で行われました。大蔵小学校は五、六年五十三名が参加しました。

緑の少年団



全国植樹祭のことなど

あの風せんには、木の種が入っています。私は、どこまで飛んでいくのだろうと思いました。

植樹祭には、県内から緑の少年団員と植物を愛する人達がたくさん集まってきました。会場からは緑の美しい山々が見え、式典には天皇陛下もご出席になりました。お手植をなさいました。式典の最後に、風せんが大空にまいあがりました。その一つ一つ

そして飛んでいったところで芽を出しりっぱな木に育ってくればいいなあと思いました。私は秋に役場の人からぶなの

木の苗をもらいました。まだ小さな、木の赤ちゃんでした。冬の間に、その苗を学校のグラウンドのところにある、背の低い木と木の間に、横にして、眠らせておきました。雪囲いと背の低い木が、雪から苗木を守るにつてくれました。冬は水がいら



ぼくらの国旗

ない聞いて、木の生きる力はずいと思えました。春、雪囲いの中から取り出すと、緑の

小さな芽をつけていました。そのぶなの苗木を式典の後に植樹しました。私は、まだ小さいけれど、何年か何十年かあとに、



りうばな木に育つてね

した。

大きな、じょうぶな木に育つてね、と心をこめて植えました。他の友達もきつと同じ気持ちで植えているんだろ

森林には大切な働きがあることを学校で学びました。森林は二酸化炭素を酸素に変えてくれます。人間はその酸素をすつて二酸化炭素をはき出します。もし多くの木が失われてしまえば、人間は生きてはいけな

ました。また、森林は「緑のダム」と呼ばれていることを知りました。落ち葉や落ちた枝が積み重なったり、その中に小動物がいて土を耕したりするので、

スポンジのように水を吸いこみやすくなっているのだそうです。雨水をたくわえると同時にきれいでおいしい水を作り出してくれているのです。水も人間にとってかけがえのないものです。その水をたくわえてくれる森林はとても大切なものだと思います。

植樹祭に参加することができて本当によかったと思いました。私の植えた一本の苗木が私達を守ってくれる森林の一本になるからです。みんなの木も大きくなって森林になることでしよう。その中の一本を植えることができたことをうれしく思います。

公団幹線林道 『真室川・小国線』が

全線開通しました。

公団幹線林道は、豊かな森林資源に恵まれた全国七山地圏域

で、既存の国、県道、市町村道等と連絡を図りながら森林整備のための道路網を形成する基幹

道路として、緑資源公団が事業主体となり開設されています。

真室川・小国線は、真室川町釜淵を起点とし、鮭川、戸沢、大蔵、寒河江、西川、大江、朝日、白鷹、長井を経て小国町箱口を終点とする総延長約二百六十kmの林道で、昭和四十九年に着工されました。

通学路に使用される公団幹線林道



この度着工以来二十八年の歳月を経て完成された真室川区間は、町の中央部を東西に通過する延長約二十五km、幅員五〜七mの幹線林道です。健全で多様な森林の整備に供されることはもちろん、各集落間の交流や通勤、通学にも利用され、農山村地域に密着した生活道として定住環境の向上に大きな役割を果



全線開通記念式典テープカット

たしています。そのほかグリーンツーリズムなどで町を訪れる人々の森林レクリエーションを通じた交流に利用されるなど、地域活性化の役割を担う道路でもあり、県としても整備促進に積極的に取り組んできたところです。

十月十六日に行われた区間全線開通記念式典には、主催者、来賓、地元地権者等約八十名が出席しました。関係者一同神事で開通後の安全を祈願した後、テープカットやくす玉割りにより通過を祝いました。

本県における公団幹線林道は、今年度朝日・小国区間の完成が予定されており、これで県内すべての区間が完了することになります。

県としては、公団幹線林道を核として適切な森林整備に必要な林道網の整備をさらに進めるとともに、林道を活用して生産される県産材の利用拡大を積極的に推進することにより、循環型社会に向け持続的に県民に恩恵を与えてくれる県民共有の財産としての「山形の森林」づくりにつなげていきたいと考えています。

〔県森林課〕

海の幸を育む山に緑を

山形県鮎商衛生同業組合が提唱した「海の幸を育む山に緑を」事業が十月十九日（土）遊佐町西楯で行われました。現地はクロマツの防風林が松くい虫の被害を受けたことにより消滅して



600本を植栽しました

ノキ等の苗木は、小学生や東北



はじめての枝打作業

この日準備したカシワやシナ



ていねいに種まき

植樹作業の後は、枝打ち作業。平成六、七年に治山事業で植栽したクロマツの枝打ちです。最初は「こんな藪に入るのいやだあ」と言っていた子も、いったん作業を始めるとわき目も振らん作業が全て終わったところで、鮎組合から子供たちにお寿司のプレゼント。午前中に酒田の鮎職人さんが一生懸命握ったお寿司です。「ありがとう」とお礼の声が響きました。

しまい、その背後のスギ林が寒風害などで枯損し始めた箇所です。地元吹浦小の児童、県鮎組合、遊佐町民の方々を中心に約二六〇名が参加しました。ヘルメットをかぶり、のこぎ

を腰にさした子供たちはとても勇ましく、見守る県鮎組合の皆さんからも笑みがこぼれました。

公益文科大の学生が六月からカミネツコンで育ててきたもので計六百本が植栽されました。子供たちは「また見に来よう」「早く大きく育って欲しい」と期待を膨らませていました。

ず、鋸を引いていました。現地では森林組合によるチップパ実演も行われ、初めて見る機械にみんな目を丸くしていました。最後は種まき。山から採ったミズナラ、カシワ、アベマキをいけばと思います。「真森林課」

「海の恵みは豊かな森林があればこそ」との想いから、日頃新鮮な魚介類の恩恵を受けている鮎組合などが消費者として森づくりに参加するのは全国的にも珍しいことです。この事業をきっかけとして、県内、全国に広がって

長井市白兔地区「生活環境保全林整備事業」竣工

「和のふる里」を願って

本事業は、
県が、長井
市白兔地区
において平
成十一年度
からの四カ年計画で取り組んできた
事業で、本年度工事が十月に完成し、
事業が竣工しましたので概要を紹介
します。



「和のふる里」記念碑

交流施設・便所・キャンプ場などが整備されており、多くの市民に利用されています。

◆整備計画

既存施設を生かしつつ、森林と水との触れ合いが楽しめる場を提供することを主眼として溪流、森林の整備を行いました。

木道を整備し、この上下流には春から秋まで花を楽しめる湿性植物を植栽し、散策者の憩いの場所を整備しました。

森林整備では、スギ人工林、広葉樹林に対して、本数調整伐・整理伐を行い、健全木の育成を図るとともに樹冠の開いた所や歩道沿いを中心に修景植栽を行うなど、健全な森林の維持増進に努めたところです。

◆「和のふる里」記念碑
去る十月十四日には、地元主催による事業竣工祝賀祭典が県・市などの関係者が出席し開催されました。式典に先立ち「和のふる里」と書かれた記念碑の除幕が行われ、出席した地元住民から大きな拍手が起ったところでした。この記念碑には、祖先が残してくれた貴重な森を将来にむかって守り育てようとする住民の思いが刻まれており、事業の竣工によりリニューアルされた葉山森林公園がさらに多くの方々より利用されることが期待されます。

◆地区の現況

当地区は、長井市の北部、白鷹町と接する葉山麓に位置し、周辺には古代の丘「梨の木平・縄文の森」等があります。

整備地区そのものが葉山森林公園に包含されていますが、この公園は、地元住民が手づくりで造成したもので、グラウンド・

◆主要事業

溪流整備では現地に自然石が多いことから、現在の景観に近いものになるようこれらの自然石を利用し、生態系・景観に配慮した床固工や護岸工を施工し、自然にやさしい親水空間を整備、また、湿地を生かした多目的広場の整備では、

現地ルポ

他に、管理車道、簡易作業施設、チップを敷いた歩道等の整備を行うなど、県民が森林に親しめる生活環境保全林を整備したものです。



整備なった溪流で遊ぶ子供達

〔置賜総合支庁西置賜森林整備課〕

「森林セミナー」の開催 森の応援団が森林の役割を再確認

サラリーマンとして働いている林業後継者、あるいは、森林に興味があり、今後森林関係の仕事で活躍したい方を対象に、平成十四年度森林セミナーが、九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。本年度は、地球温暖化防止のための、大気中の炭酸ガス濃度削減に期待が寄せられている森林について、参加者は、セミナーを通じて、その魅力や機能について学びました。

初日の講師としてお迎えした山形大学、野掘嘉裕教授は、県内の森林の現状を説明した上で、森林をつくることについて、人間にとって利用可能であり、木材を有効利用することにより森林も活性化し、炭酸ガス固定能力も大きくなると話されました。

二回目では、現地に赴き、林業士・指導林家の黒田明雄氏所有林、「針葉樹の森」にて樹高測定を体験しました。

削減に期待が寄せられている森林について、参加者は、セミナーを通じて、その魅力や機能について学びました。

三回目は、県森林協会、専務理事山口清氏から森林作りの基本について話がありました。

四回目では、西置賜ふるさと森林組合長、井上俊雄氏から、木炭文化について、木炭の歴史は古く、最古の木炭は、約三万年前にもさかのぼること、近年は、燃料以外に土壌改良材他、空気清浄材、電気特性を利用したVDTの電磁波遮へい用材としての利用について話がありました。

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

に開催されました。

本年度は、地球温暖化防止のための、大気中の炭酸ガス濃度削減に期待が寄せられている森林について、参加者は、セミナーを通じて、その魅力や機能について学びました。

三回目は、県森林協会、専務理事山口清氏から森林作りの基本について話がありました。

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

四回目では、西置賜ふるさと森林組合長、井上俊雄氏から、木炭文化について、木炭の歴史は古く、最古の木炭は、約三万年前にもさかのぼること、近年は、燃料以外に土壌改良材他、空気清浄材、電気特性を利用したVDTの電磁波遮へい用材としての利用について話がありました。

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標

九月十一日（水）から十月三十日（水）までの間計五回にわた

り、米沢市林業センターを主会場に開催されました。

五回目では、県林業士会長、川合要一氏から、林業経営として、皆伐は行わず、択伐を採用、八十年以上の長伐期生産を目標



森林の魅力について学ぶ



樹高測定法に見入る参加者

川村造林記念 山形県林業賞

大江町本郷 菊地徳太郎氏
長年にわたり、所有山林を適正に管理する中で、長伐期施業や複層林造成など多様な森林整備に取り組み、先導的な林業経営を実施している。

昭和五十九年に西村山地方森林組合理事に就任以来森林組合の育成、発展に尽力、同年、指導林家として県の認定を受け、所有山林を県内外からの林業視察研修の場として提供するほか、林業関係の各種協議会等の委員を務めるなど、本県の林業振興に大きく貢献している。

さらに、所有山林内に万物を

慈しむ心や自然に対する畏敬の念を表す「草木供養塔」を建立するほか、町内外の小中学校で林業に関する講演を行うなど森林・林業の重要性について広く啓発に努めている。

◆森林の多面的機能の発揮

昭和三十六年に長井市白兔地区の住民が、戦後の荒れ果てた山林及び原野を緑の大地にするために設立したもので、現在百二十一名の会員で組織されている。

設立以来、所有山林の適正な管理を全て会員により実施し、市行造林や公社造林等の制度を活用して奥地部まで計画的に整備を進め、災害の防止や安定的な水資源の確保を図り、地域における森林整備の模範となるほか、農業の振興にも貢献。

また、信仰の山として開山さ

れた葉山までの登山道の維持修繕や周辺の自然環境の保全に努め、登山者の安全確保と貴重な史跡の管理に尽力している。

さらに、昭和六十三年より所有山林の一部を「葉山森林公園」として、手作りでバンガローやキャンプ場、水車小屋等を整備し管理するとともに、広く一般県民を受け入れ、森林体験交流を実施するなど、地域の活性化及び森林のもつ多面的機能の発揮に大きく貢献している。

〔県森林課〕



菊地 徳太郎 氏

川村造林記念山形県林業賞は、民有林の林業振興に寄与したものに贈られる本県最高の賞です。本年度は、大江町の菊地徳太郎氏と長井市の社団法人白兔共栄会に決まり、さる十一月十三日、県庁講堂で行われた第五十二回県農林水産祭で知事より表彰状が授与されました。

受賞者の主な功績概要

◆先導的な林業経営を実践



白兔共栄会が整備、管理する葉山森林公園

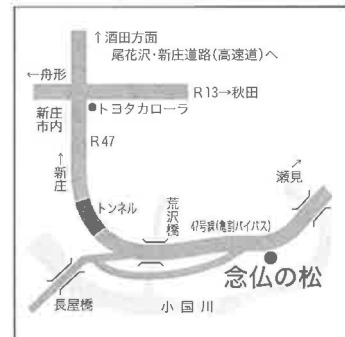


山形県の古木・名木④5

念仏の松

舟形町長尾裏手山

(案内略図)



平成四年亀割バイパス開通によって分断された旧瀬見街道、長尾集落裏手に、念仏の松がある。根元の囲り四メートル、樹高約十五メートルのアカマツで、この大きさからかなりの年数を経ていることがわかるが、樹齢は五百年弱との推定もある。

昔、出羽三山参りで宮城、岩手方面から訪れる道者達は、この松の下に来て初めて、霊峰月山を仰ぎ、思わず念仏を唱えたといわれる。

平成十年四月二十四日、舟形町指定天然記念物に指定されている。
〔県みどり推進機構〕



特徴 過疎化対策、農村振興を目的とした総合的な施設で、隣接して床面積192㎡ほどの雪室が設置され、多角的に活用されている。

公共木造施設

ふるさと自然館次年子

大石田町大字次年子

完成年度 平成12年度

床面積 397.64㎡

構造 木造平家建

間合わせ 大石田町産業振興課



『農林業体験学習』を応援します

自然環境に調和した豊かで美しいふるさと空間としての農業・農山村を守るため、県庁農政技術者のOB組織と農業者グループが連携して、農林業ボランティア組織を設立しました。

これまでの農林業の経験を活かして、小・中学校での農林業体験・市(町・村)民園芸グループでの技術講習会などの講座運営アドバイス、講師派遣を行います。

「食糧」「農業」「森林」「農村環境」に関する学習や、技術講習希望の場合は、左記の「山形県食と緑の交流プラザ」にお問い合わせ下さい。



① 山形県食と緑の交流プラザ事務局
(山形県土地改良会館別館内・山形市松栄)

TEL

〇二三一六四七一八三三〇

FAX

〇二三一六四七一八三三八

② 申込・相談等の受付日時

毎週月・水・

金曜日(祝祭日は除く)

九時～

十二時

③ 派遣経費 無料

楽しく豊かな行事、催物の一環としての技術講習の場づくりなどいろいろな企画が考えられます。お気軽にご相談ください。

地球温暖化防止に貢献する「県産材」の利用

木材を利用すると

(貯蔵効果)

木でつくった家や家具などを長い間使うことで、炭素を長時間貯蔵できます。

(省エネ効果)

製造時のエネルギーが少ない木質系原料を使用することによって、CO₂排出を削減できます。

(エネルギー代替効果)

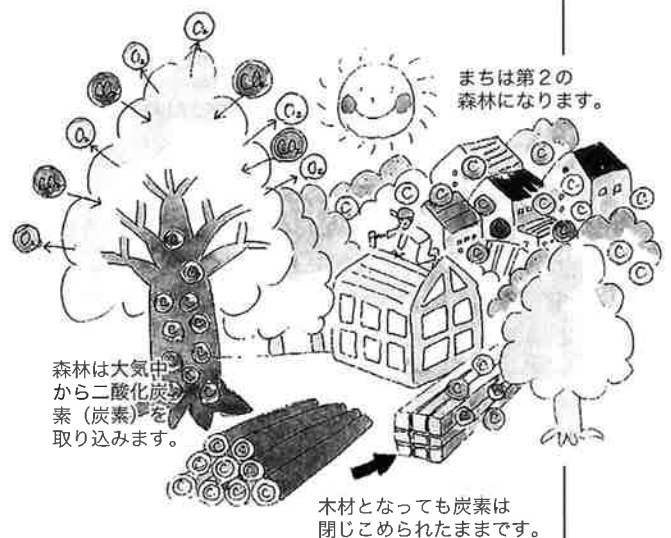
化石燃料を使用する代わりに木材を使用することにより、化石燃料中の炭素を貯蔵したままにできます。

一戸当たりの炭素貯蔵量と材料製造時の炭素放出量




資料：岡崎ら、1998 他

木の家は第2の森林



提供：最上村山流域林業活性化センター
TEL. 023-631-6566 FAX. 023-631-6573



活かしてみましょ
冬のボーナスは
農林中金へ!

確定利回りの1年貯蓄
ワリ


投資信託



どなたでもお気軽に

農林中央金庫山形事務所
〒990-0042 山形市七日町3-1-11
☎(023)641-6271

21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人 **山形県林業コンサルタンツ**
理事長 菅原 六郎
山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800
FAX (023)647-1801

—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡余目町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
F A X 0234(42)1124

トンビマイタケ菌床 庭先でも栽培
好評予約受付中！ できます。



印刷所

渡辺活版所 定価 一部二一〇円



森林やまがた12月号 平成14年12月1日発行 通巻第69号

監 修 山 形 県
編集・発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>

古紙配合率100%再生紙を使用しています